

農業経営基盤強化促進法第18条第1項の規定に基づき、公表します。

只見町長 渡部 勇夫

市町村名 (市町村コード)	只見町 (07367)
地域名 (地域内農業集落名)	黒谷地区 (黒谷、黒谷入)
協議の結果を取りまとめた年月日	令和6年9月12日 (第2回)

注1:「地域名」欄には、協議の場が設けられた区域を記載し、農林業センサスの農業集落名を記載してください。
注2:「協議の結果を取りまとめた年月日」欄には、取りまとめが行われた協議の回数を記載してください。

1 地域における農業の将来の在り方

(1) 地域農業の現状及び課題

・黒谷地区は、黒谷集落において昭和62年度に沖地区を除く全地区で、昭和63年度に沖地区で、黒谷入集落において昭和63年度に全地区で基盤整備実施済みで、担い手への集積も進んでいる。
・地区内の高齢化率は46.7%で、畑については、高齢化や後継者不足により耕作放棄地が拡大しているため、基盤整備された畑の管理方法など、今後地域で守るべき農地の見極めが必要である。
・峯沢エリアを中心に、サル、イノシシ等の鳥獣被害が拡大しており、農作物への被害防止対応も課題である。

(2) 地域における農業の将来の在り方

・地域の主要作物は水稻栽培であり、高齢化が進む中で農作業の省力化と負担軽減を図るため、ロボット技術やICTを活用したスマート農業の導入を検討していく。
・今後も担い手への集積・集約化を進め、分散作圃を解消する。

2 農業上の利用が行われる農用地等の区域

(1) 地域の概要

区域内の農用地等面積	89.7 ha
うち農業上の利用が行われる農用地等の区域の農用地等面積	89.0 ha
(うち保全・管理等が行われる区域の農用地等面積)【任意記載事項】	ha

(2) 農業上の利用が行われる農用地等の区域の考え方(範囲は、別添地図のとおり)

・農業振興地域の農地及びその周辺の農地を、農業上の利用が行われる農用地等の区域とする。
・将来の耕作者が決まらない、保全・管理等が行われている農地については、具体的な取組が計画されるまで検討中とする。

注: 区域内の農用地等面積は、農業委員会の農地台帳等の面積に基づき記載してください。

3 農業の将来の在り方に向けた農用地の効率的かつ総合的な利用を図るために必要な事項

(1)農用地の集積、集約化の方針
農地中間管理機構を活用して、担い手へ農地集積、集約化を進める。
(2)農地中間管理機構の活用方針
・将来の経営農地の集約化を目指し、農地所有者は原則農地中間管理機構に貸付けていく。 ・担い手が病気や怪我等の事情で営農の継続が困難になった場合には、農地バンクの機能を活用し、農地の一時保全管理や新たな受け手への付け替えを進めることができるよう、農地中間管理機構を通じて担い手への貸付けを進めていく。
(3)基盤整備事業への取組方針
区域の大部分が基盤整備実施済みであるため、担い手の意向を確認し、必要に応じて実施していく。
(4)多様な経営体の確保・育成の取組方針
町、県、JA等の関係機関と連携し、後継者及び新規就農者の確保・育成に努める。
(5)農業協同組合等の農業支援サービス事業者等への農作業委託の活用方針
必要に応じて、今後検討していく。

以下任意記載事項(地域の実情に応じて、必要な事項を選択し、取組方針を記載してください)

<input checked="" type="checkbox"/> ①鳥獣被害防止対策	<input type="checkbox"/> ②有機・減農薬・減肥料	<input checked="" type="checkbox"/> ③スマート農業	<input type="checkbox"/> ④畑地化・輸出等	<input type="checkbox"/> ⑤果樹等
<input type="checkbox"/> ⑥燃料・資源作物等	<input checked="" type="checkbox"/> ⑦保全・管理等	<input type="checkbox"/> ⑧農業用施設	<input type="checkbox"/> ⑨耕畜連携等	<input type="checkbox"/> ⑩その他

【選択した上記の取組方針】

- ①サル、イノシシ、クマ、シカ、アオサギ等の鳥獣による農作物の被害が拡大しているため、町、猟友会等関係団体と一体となって被害防止対策に取り組む。
- ③農作業の省力化と負担軽減を図るため、ロボット技術やICTを活用したスマート農業の導入を検討する。
- ⑦中山間地域等直接支払交付金において、区域内の農用地の保全・管理を行う。